

ブタ敗血症性ARDSモデルの構築

－ 敗血症性ARDSの治療への挑戦 －

獣医学群 / 獣医保健看護学類 / 動物生体反応研究室

宮庄 拓

[Taku Miyasho] 講師 [博士(獣医学)]



● 研究の概要

ブタを用いた敗血症性ARDS (acute respiratory distress syndrome: 急性呼吸窮迫症候群) モデルを構築し、敗血症性ARDSの発症メカニズムや病態の解明、様々なモニターとその病態との関連性を検討している。

● 研究の内容・特徴

敗血症とは『感染を基盤とするSIRS (systemic inflammatory response syndrome: 全身性炎症反応症候群)』であり、感染症に対する生体反応が自己の組織や器官に傷害を与えることにより生じ、早期に発見され、適切に治療されない場合、死に至る。敗血症には様々な病態が混在し、ショック、ARDS、AKI (acute kidney injury: 急性腎障害)、心筋症などを呈する。本研究は医療疾患モデル動物としてブタを用いて、LPS (Lipopolysaccharide; エンドトキシン) を投与して敗血症性ARDSを作出し、敗血症性ARDSの発症のメカニズムや病態を解明し、さらに、様々なモニター類を用いて、病態を表す新しい指標を探索することを目的に行っている。将来、このモデルを用いて、敗血症性ARDSに対する治療薬や治療デバイスの効果を検討していきたいと考える。



● 用途・応用例

- ・敗血症性ARDSの治療効果の検討
- ・敗血症モデルの構築
- ・敗血症治療トレーニング
- ・新しい敗血症病態指標の探索
- ・
- ・

● アピールポイント

現在、人の疾病モデル動物としてブタが注目されている。本研究のように、ブタを用いた疾病モデルの構築や、治療薬や治療デバイスの治療効果を検討する研究ができる。

● 本研究に関連する知的財産

発明の名称 :

特許番号 :

● 研究室のホームページ